

# ドクター + 教えて

## 夜間頻尿について

磐田市立総合病院 泌尿器科 科長 青木高広

あおき たかひろ

今回は「夜間頻尿」の話をお願いします。「寝ようと思って床に入ってから、起きようと思って床を離れるまでの排尿回数」が2回以上あると、トイレ移動で転倒・骨折など、けがを起したり、不眠になったり、日中に眠気が生じたりするなど、生活の質の低下につながる割合が増えてきます。

夜間頻尿の原因としては、①前立腺肥大症、過活動膀胱、間質性膀胱炎、膀胱がん、前立腺がんといった泌尿器科疾患、他にも②多飲・夜食など水分摂取・塩分摂取は③アルコール、カフェイン、たばこなど嗜好品はないか④心疾患、腎疾患、糖尿病、高血圧など他疾患はないか⑤排尿・睡眠に影響する薬剤はないかなど、いろいろな要素が関わってきます。原因によって治療法が異なりま

必要です。

夜間多尿（1日尿量のうち夜間尿量が多い）がないか、排尿症状・畜尿症状・排尿後症状がないか、といった判断をしながら治療を検討します。その際に、排尿日誌、質問票、腹部超音波検査、尿流量（ウロフロー）検査、血液検査など苦痛の少ない検査や、場合によってはCT、MRI、さらに膀胱鏡検査、膀胱内圧検査など、苦痛を伴う検査をお願いすることもあります。状態に応じた検査のご相談をさせていただきます。

泌尿器科で扱わない病気が原因の場合、なかなか治療が難しいこともありますが、排尿関連の薬剤投与や、食事・水分摂取などの生活習慣の改善で治療がうまくいく場合もありますので、お困りの場合は泌尿器科へご相談ください。

## かかりつけ薬剤師を持ちましょう！

磐田市立総合病院 薬剤部

部長 正木銀三

平成28年4月から「かかりつけ薬剤師」制度が新たにスタートしました。

かかりつけ薬剤師は、薬を安全・安心に使用していただくため、処方薬や市販薬などあなたが使用している薬の情報を一カ所でまとめて把握し、薬の重複や飲み合わせのほか、薬が効いているか、副作用はないかなどを継続的に確認します。複数のお薬手帳をお持ちの方には、1冊にまとめていただくよう提案し、お薬手帳を連絡記録ノートとしても活用できるように一緒に記載していきます。

緊急のときは、薬局が開いていない時間帯もご相談いただける体制を整えています。外出が難しい高齢者などの患者さんには、主治医と相談して、お宅に伺い、薬の説明をしたり、手元に残っている薬の確認も行います。

医療施設に入院するときも「かかりつけ薬剤師」と医療機関の薬剤師が連絡を密にすることにより、自宅での服用状況や処方内容などが迅速に分かり、切れ目のない安心・安全な薬物治療をつなげることができます。

来局時以外でも「かかりつけ薬剤師」として薬や健康などに関する相談にも対応します。

「かかりつけ薬剤師」を持つためには、あなたの指名が必要です。どの薬剤師でも・・・というわけにはいかず、一定の要件をクリアした経験豊かな薬剤師の中からご希望の薬剤師を1人ご指名ください。少し負担はかかりますが、同意書に署名をいただくことで次回から担当させていただきます。

信頼できる「かかりつけ薬剤師」を見つけてください。



くらしの  
情報